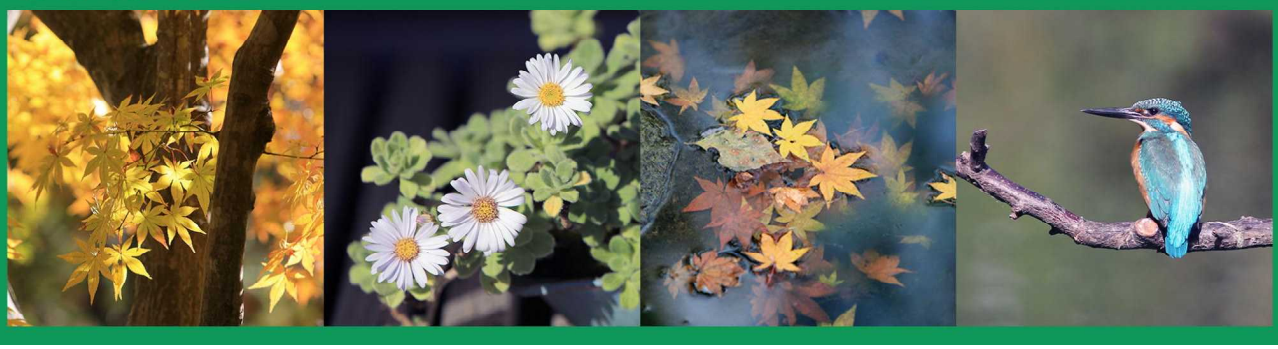
http://decfamily.p1.bindsite.jp/2013NEW/

We 25R

No.282　13/11/11



遅刻の倫理

選択が一段落したし、いよいよ寒くなる時期でもあるので、これからは学年として「遅刻指導」に力を入れることになる。25Ｒでは、朝のホームルームに間に合わない人が十名くらい、1限の授業に遅れる人が数名いる。授業に間に合わない人は、当然学年指導の対象となるが、そうなる前に直してほしいし、全員が朝のホームルームに間に合うように、つまり、８時15分を目指して（５分前集合！）登校する習慣を確立してほしい。

言わずもがなのことではあるが、遅刻は遅刻する個人に限定された問題ではない。遅刻が多ければ、当然のことながら落ち着いた授業ができないわけだし、そんなクラスを授業担当の先生が好きになるわけはない。好きにならなければ、その先生の最高のパフォーマンスを期待するのは難しくなるだろう。そうなると、結局、まじめにやっている諸君が損をすることになるのである。

４月に書いたが、授業は先生だけがするものではない。君たちと先生方が一緒になって創りあげていくものである。両方のやる気が組み合わさった時に、最高のパフォーマンスが期待されるのだ。だから、その一方である君たちの側に、少しでもパフォーマンスを下げる振る舞いが見られるならば、それが授業全体の質を下げることにつながってしまうのである。遅刻して教室に入っている諸君は、そのことをゆめゆめ軽く考えないことだ。

遅刻はクラス全員で立ち向かわなければならない大切な課題だ。先ずは自己を律すること、そして、遅刻する者に対しても、友だちとして厳しい態度で臨むことが必要だろう。

ところで、内田樹先生が「倫理」についておもしろいことを述べている。引用しよう。（『街場の憂国論』晶文社、2013）

＊

「倫理」とは原義において「倫（なかまたち）」と共にあるための「理法」のことである。「なかま」のいない人間に倫理は不要である。

（中略）

仲間がいると人間の可動域は制約され、自由は抑制されるが、その代わりに「ひとりではできないこと」ができるようになる。「ケミストリー」と言ってもいい。自分に「そんなこと」ができるとは思ってもいなかったことが「仲間」の登場によってできるようになる。

一方で何かを失い、一方で何かを得る。帳尻が合う場合もあるし、合わない場合もある。「仲間がいてよかった」と思うこともあるし、「いない方がよかった」と思うこともある。

でも進化の淘汰圧は「仲間がいる種」だけを残した。だから、私たちは「仲間とともに生きる理法」を学ばなければならない。

＊

大学に行くためだけなら予備校にでも行って一人で勉強すればよい。それなのに君たちはわざわざ日比谷に在籍している。在籍している以上、「倫理」が求められる（よく高校と予備校を勘違いしている人がいるが、日比谷に在籍する以上、求められる倫理と責任があることを忘れてはいけない）。

しかし、だからこそ仲間とともに可能性を広げることができるのである。日比谷の仲間は素晴らしいはずだ。その仲間とともに可能性を広げていくためにも遅刻は厳禁である。